

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念として、地域に根ざした医療と介護の調和を目指している。旭竜クリニックを中心として医療依存度の高い利用者の入所、看取りまで対応している。	法人の中心的理念(地域に根ざした医療と介護)を会議、申し送り時に唱和しスタッフ一同が共有を深め、理念の共有に努めている。	医療とケアの連携を中心にした理念を掲げ努力をされていますが、もう一段上を目指し努力して下さることに、期待いたします。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域の一員として地域行事に参加し、交流を図っている。	近くに教育文化施設もあり、場所的に恵まれている。現状に満足することなく職員の自発的な活動により新たな地域との交流もできていました。(幼稚園児と事業所との交流会)	これからも利用者と地域の交流だけでなく、施設がこれまで培ってきた介護に関する、経験・知識を、地域の高齢者福祉に役立ていただくことに期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム機能を入居者のケアに配慮しながら地域に開放している。(認知症の理解や関わり方について相談対応・教室開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の皆様(町内会長・民生委員等)を構成員となっただき、2か月に1回開催している。意見交換や相談に乗っていただき、サービス向上につながるように努力している。	地元の方、民生委員、家族の参加があり、定期的に開催されている。事業所の関連行事とも絡め地域密着型施設としての役割を果たされていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類手続きや運営に関し、質問をしたりご指導いただいたりしている。	情報交換しながら、課題について話し合い細かなことでも報告、相談ができています。市(行政)の対応も協力的であるとのことでした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置、必要な場合は、必ず同意を取るなど徹底している。	身体拘束をしないケアに事業所全体で取り組んでいました。職員教育も法人全体で対応されているようです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ったり、高齢者虐待防止法に基づいた勉強会を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームに日常生活自立支援事業を利用している利用者がおられることもあり、周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容・改定内容を十分に説明している。説明会を開いたこともある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、来訪者からの意見が聞けるよう配慮している。意見など出しやすい関係作りに努めている。	家族からのご意見 要望を頂くために玄関に意見箱を設置している。利用者家族様より直接ご意見を頂くことが多いようである。ご家族からの意見で玄関に手洗い設備を設置され、意見を反映されていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて共に取り組んでおり、介護従業者の採用、運営方法、入居者の入退去の判断等について、職員の意見を聴いている。	管理者が職員の意見を聞き運営に活かされているようです。管理者、職員がお互いの立場を理解し活発な意見交換なされているようでした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを導入して、職員の意向や状況把握、スキルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	岡山県認知症高齢者グループホーム協会の研修参加、法人全体研修、その他内外の研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡山県認知症高齢者グループホーム協会の正会員である。研修などに参加し、交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前・入居後の個人面接において、要望や意向をお聞きする機会を設けている。また、定期的に訪室し、面談する機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居後の個人面接において、要望や意向をお聞きする機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前・入居後の個人面接において、要望や意向をお聞きする機会を設けている。また、定期的に訪室し、面談する機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は馴染みの関係構築を目指し、普段から温かみのある言葉遣いや対応に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の友人や近所の方の面会を受け入れ、入居者が今までに構築した関係が崩れないよう支援している。	入所者が近所の方が多く訪問者は多いようである。事業所側として誰もが気軽に訪問できる雰囲気作りに、努めているようです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	申し送りやカンファレンス、普段の報連相において、状況把握を心掛け馴染みの関係が作られるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、行うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前・入居後の個人面接において、要望や意向をお聞きする機会を設けている。また、定期的に訪室し、面談する機会を設けている。	一人ひとりの思いを見極めるのがなかなか大変ですが、本人の気持ちを大切にケアに心掛けているとのこと。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の個人面接において、聞き取りなどでベースシートを作成し、これまでの生活歴などを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、報連相を徹底し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望をお聞きし、チームとしてケアを行う上での課題を解決するために、全ての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	ご利用者それぞれの課題を定め介護職員が現場での気づきなどを反映させたアセスメントを基に、現状に即した介護計画作成に努力されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送りやカンファレンス、普段の報連相において、状況把握に心掛け対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会長、民生委員等のからの情報、地域包括支援センターの会議等に参加し、情報の共有化等に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である旭竜クリニック主治医と連携し、適切に対応している。	協力医との連携が充分になされていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師と常に情報交換し、医療面との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	直ぐに診てもらえたり、往診してくれたり、入院を受けてもらえる医療機関が確保できている。入院中も面会に行き様子を伺い、退院時にスムーズに受け入れ、対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の指針、看取りについて説明している。また、状態によっては看取りの同意書を取り、ご家族の意見をベースにチームとしてのケア方法を話し合いを行っている。	母体が医療法人であるのと、看取り 重度化に向けた実践を積極的に取り組まれました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応方法は指導し、詰所に図案化したものを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時、災害時の避難方法・避難経路・避難場所などの訓練をしている。また、町内会長等、地域の皆様と話し合いをし、連携に努めている。	定期的に避難訓練を行っている。助け合いの精神を基本に掲げ、地域との連携も充分ななされていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	強引に進めるのではなく、入居者の考えや思いに合わせて、誇りやプライバシーを損ねないような対応を心がけている。	大きな声で声掛けしないように配慮し、一人ひとりのプライバシーの確保にも努めている。困難事例にも職員全員での対応に勤められていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずどのようにしたいかを確認し、意思に沿った支援を心がけている。また、必要な方には選択肢を準備し、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間もご本人の体調や睡眠時間等、ペースに合わせている。また、業務優先で介護は行わない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族からもご要望を聴取し生活歴と合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。準備や片付けも力量に合わせて行なってもらっている。	事業所内だけだと単調な食事になりがちである。行事などの機会を最大限に生かした食事のケアが実践されていました。体調に合わせた食事管理も主治医からの指示を守り実践されていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の力を引き出しながら、口腔の清潔を日常的に支援している(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)。異常があれば、家族の了承を得て訪問歯科の治療もうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。食前、食後のトイレへの声かけ・誘導を行い、便座に座る習慣づけを行なっている。	一人ひとりの排泄パターン(行動)を把握した個別の対応が出来ていました。利用者が混乱を起こさない工夫がなされていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事の提供と水分補給を行なっている。また、体操などで体を動かし便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に健康状態の確認ができており、入居者の希望に合わせ、くつろいだ入浴ができるように支援をしている。	健康状態の確認を取りながら気分を損ねないように努められていました。機械浴が設置され、入浴面でも重度化に向けた対応がされていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜に眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じ安眠策を採っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・医療連携体制の看護師と連携し、内服薬を理解するよう努め、カルテに内服薬情報を整理し、情報共有している。薬の変更があった時は、申し送りノートにも記入し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に留意しながら買い物に付き添ったり、衣類を選んだり、楽しみなどを選択できるよう援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ、近隣への散歩や買い物を行っている。	利用者に季節感を感じてもらうと共に外気浴もかね、ストレス発散できるように支援していき生きることの喜びを味わってほしいとの思いから外出支援にも、力をいれている。近くの公園、コンビニと出かけられているようでした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の小遣い程度の金銭管理を本人が行えることを尊重し、個々の力量に応じて必要物品や好みの買い物をする機会を日常的に作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、サポートしている。(居室への個人用電話の設置)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は、家庭的な雰囲気を大切に、木の温もりを感じられるような設計になっている。自然に触れ合う事ができるよう、菜園や花壇を設け外気浴が出来るよう、ウッドデッキも設置している。カーペットを敷き、足を伸ばして過ごす事が出来る。	見守りがしやすく家庭的な雰囲気が十分演出できている。皆との共同生活が居心地よく過ごせる環境づくりがなされており、リビングの広さも程よい感じをうけました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過ごす場所が個々で決まっている為、入居者同士の距離感を一定に保てるようにしている。馴染みの関係にある入居者同士が心地よく過ごしていただけるような居場所作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自宅で使い慣れた家具や馴染みのある生活用品を持ち込んでいただき、以前の住環境に近づけるように工夫している。	各居室は、そのひとその人がくつろげる環境・和める環境づくりに、努力されている様子がうかがえました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室では以前に使用していた生活用品に囲まれ、安心して生活していただけるようにしている。また、畳を設置し、くつろげる空間を提供し、利用者間が馴染めるよう工夫している。		